

平成23年4月  
尼崎市（兵庫県）

・平成22年度フォローアップ結果のポイント

**計画期間:平成20年7月～平成25年3月(4年8月)**

**1. 概況**

<取り巻く環境>

阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業の完了に伴い居住人口の増加が期待されるほか、平成22年12月12日に「スーパー玉出尼崎店」が「トポス尼崎店」(平成22年2月28日撤退)跡地に開店するなど、中心市街地の活性化に寄与する要因があるが、通行量が減少するなど事業実施の波及効果は、あまり現れていない状況である。

<まちの意識変化>

千葉県柏市を視察したことで、本市であれば、他市の先進的取り組みをどのように活用できるのかという具体的な視点で考えるため、小委員会等を設置する案が協議会の場にて出るなど、まちづくりを積極的に考えていくという意識変化がある。

<事業の進捗>

今年度4事業追加し、総事業数は63事業となった。

総事業数63事業のうち、15事業が完了、44事業実施中、4事業未完了。

認定事業については、一部の事業の進捗が遅れているものの、概ね良好な進捗状況となっていると言える。

**2. 目標達成の見通し**

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
商業活性化の推進による魅力あふれる中心市街地の形成	小売業年間販売額 (百万円)	24,910 (H18)	27,000 (H24)	24,590 (H21)		
「ものづくりのまち・尼崎」の産業活力を育む中心市街地の形成	サービス業等事業所数 (件)	1,112 (H18)	1,200 (H24)	1,089 (H22)		
地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成	休日の歩行者通行量 (人)	67,314 (H19)	72,000 (H24)	56,164 (H22)		

注) 取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。  
取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。  
取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。  
取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。  
取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

**3. 目標達成見通しの理由**

・小売業年間販売額

目標値270億円のところ、平成21年の推計値246億円となっており、基準値より3億円の減

少となっている。一部事業の進捗状況は予定どおりではないものの、目標年度にむけた取り組みが進行しているため目標達成は可能である。

#### ・サービス業等事業所数

目標値 1,200 件のところ、平成 22 年の推計値 1,089 件となっており、基準値(1,112 件)から減少傾向にある。目標達成に寄与する主要事業については、実施中であるものの実績に結びついていないもの、取り組み自体がソフト事業であるため、後年度になるにしたがって効果が現れるものと予想されるが、このままでは目標達成可能とは見込まれないことから、今後、新たな事業を追加することも検討していきたい。

#### ・休日の歩行者通行量

目標値 72,000 人のところ、平成 22 年の休日における一日あたりの歩行者通行量は、基準値より 11,150 人減の 56,164 人となっている。目標達成に寄与する主要事業については、概ね計画通り実施されているものの、一部の事業に進捗の遅れが見られる、一方で、今後、市街地再開発事業等の居住人口増加施策による効果が表れてくることが見込まれることから、目標達成可能と見込まれる。また目標達成に向けた対策として、新たに 2 事業を追加した。今後、その他更なる対策を検討していきたい。

### 4 . 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

#### ・休日の歩行者通行量

目標値 72,000 人のところ、平成 21 年の実績値は 71,770 人となっており、ほぼ達成していたが、平成 22 年の実績値は 56,164 人と減少しており、目標数値まで開きがある。

商業集積地の魅力の向上のための事業の一部の進捗が遅れていることが影響しているものと考えられる。しかしながら、今後、市街地再開発事業等の居住人口増加施策や、新たな商店出店による効果等が表れてくることが見込まれることから、引き続き最大限努力していく。

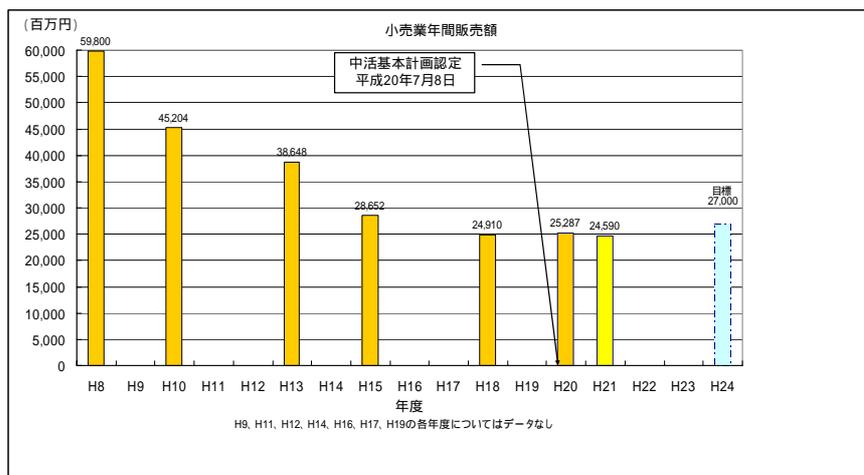
### 5 . 今後の対策

取り巻く環境としては厳しいものがあるが、中心市街地活性化協議会において事業が円滑に実施されるよう調整を図りながら事業の進捗管理を行っていくとともに、必要な事業を追加するなどして、目標達成に向け引き続き努力していく。

・目標毎のフォローアップ結果「商業活性化の推進による魅力あふれる中心市街地の形成」

「小売業年間販売額」 目標設定の考え方基本計画 P54～P57 参照

1. 調査結果の推移



年	億円
H18	249 (基準年値)
H19	
H20	253
H21	246
H22	
H23	
H24	270 (目標値)

調査方法：中心市街地内市場・商店街ヒアリング調査

調査月：平成22年10月

調査主体：あまがさき中心市街地活性化協議会

調査対象：中心市街地内の小売業店舗10店

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・出屋敷リベル核店舗誘致対策運営会議事業（尼崎市）

事業完了時期	【実施中】平成18年度～
事業概要	阪神出屋敷駅北地区市街地再開発事業による施設建築物「リベル」の核店舗であった「ダイエー」撤退の正式発表を受けて、早急に後継店舗誘致を実現するため、「ダイエー」床の所有企業をはじめ、本市や県民局などの関係機関をメンバーとした会議体を設置し、誘致に向けたコンセプトの検討や情報の提供などを行い、所有企業による主体的な誘致活動を支援するもの。
事業効果又は進捗状況	平成18年10月：「ミドリ電化」が2階に出店 平成20年4月：「関西スーパー」が1階に出店 引き続き、誘致に向け業種業態ゾーニング計画案及びテナントミックス計画案を作成するなど活動中。

・尼センデパートリニューアル事業（阪神不動産株、阪神電気鉄道株）

事業完了時期	【未】～平成21年度
事業概要	本市中心市街地の東の玄関口に位置するターミナル機能を有した商業施設のリニューアル工事を行うことにより、新たな魅力の創出を図るもの。
事業効果又は進捗状況	リニューアルの方針に変わりはないものの、景気後退の影響を受け、リニューアルの仕方等を検討中であるため、事業実施に遅れが生じてい

る。

・商業支援事業（尼崎市）

事業完了時期	【実施中】平成 22 年度～
事業概要	商業集積の魅力を高めるために、空き店舗を活用して開業意欲のある起業者に対し支援を行うことで、商店街内での開業を促し、魅力的な商業空間の形成を図るものであり、商業活性化の推進による魅力あふれる中心市街地の形成に必要な事業である。
事業効果又は進捗状況	中心市街地内に開業する店舗は存在したものの、支援希望起業者はなく事業としての具体的な成果には至らなかった。 引き続き、施策のPRに努め、開業を促していく。

・ICカード活用商店街活性化事業（株ティー・エム・オー尼崎）

事業完了時期	【未】～平成 21 年度
事業概要	鉄道系 IC カード「ピタパ」等と連携し、顧客の囲い込みを図ると共に、地域の購買力の発掘を推進することで、中心市街地の活性化を図るもの。
事業効果又は進捗状況	システム導入に際して検討中であり、実施時期に遅れが生じている。 費用対効果の面から実施の仕方を見直している状態にある。

・メイドインアマガサキ事業

（株ティー・エム・オー尼崎、中央・三和・出屋敷商業地区まちづくり協議会）

事業完了時期	【実施中】平成 15 年度～
事業概要	尼崎ならではの商品の発掘・加工・アソートなどにより高付加価値化を図る商品開発に取り組むとともに、認証企業間の連携促進等の推進により地域経済の活性化を図るもの。
事業効果又は進捗状況	本事業の根幹をなすメイドインアマガサキコンペは、尼崎ならではの商品等を広く顕彰するものであるが、毎年度、応募数が減ることなく、本市のPRに欠かせない人気イベントとして定着している。 効果の推計：メイドインアマガサキの売上増加額 1百万円（= H21 実績 - H18 実績 = 22,670 千円 - 22,000 千円）

・阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業

（阪神尼崎駅南地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【済】～平成 21 年度
事業概要	都心地域の特性を活かした民間開発を促進することによって、密集した老朽木造家屋の解消、都市火災・安全性の向上及び都市地域としての都市機能の更新を図るための駅前市街地再開発事業。 ・地下 1 階、地上 29 階建て鉄筋コンクリート造 ・住宅 207 戸（うち高齢者対応住宅 26 戸） ・メディカルモール等

事業効果又は進捗状況	平成 22 年 11 月竣工。
------------	-----------------

・御園公園跡地活用事業（さきタワー・サンクタス尼崎駅前）  
（オリックス不動産㈱大阪支店）

事業完了時期	【済】～平成 20 年度
事業概要	御園公園跡地有効活用事業提案競技による最優秀提案事業（住宅型有料老人ホーム及び店舗を併設したマンション）であり、まちなか居住を推進し、地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成及び商業活性化の推進を図るもの。 ・地下 1 階、地上 29 階建て鉄筋コンクリート造 ・住宅 228 戸
事業効果又は進捗状況	平成 20 年 9 月竣工。 世帯数：208 世帯（平成 22 年 4 月 1 日現在） 効果の推計：214 百万円（＝208 世帯×147 万円／世帯×70%）

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

エリア内の商業事業者の売上は基準値及び平成 20 年度と比較しても減少している状況にあるが、ほとんどの計測地点での通行量の減少からもわかるように、中心市街地への来街者が減少している。その主な要因としては、市内の別地区での大型商業施設の開業や「トポス尼崎店」の閉店などが考えられる。

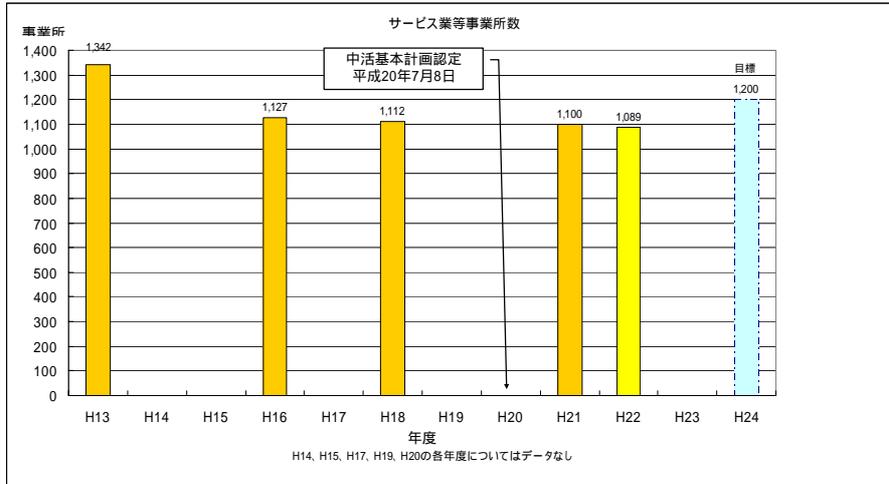
一方、阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業による大型マンションが平成 22 年 11 月竣工（平成 23 年 1 月入居開始）により、後年度になるにしたがって効果が現れると考えられることから、目標達成可能と見込まれる。

一部主要事業の進捗状況は予定どおりではないものの、各事業実施主体との調整を図りながら認定事業の執行の促進などにより目標達成できるよう引き続き取り組んでいく。

目標毎のフォローアップ結果 「ものづくりのまち・尼崎」の産業活力を育む中心市街地の形成」

「サービス業等事業所数」 目標設定の考え方基本計画 P54～P57 参照

1. 調査結果の推移



年	件
H18	1,112 (基準年値)
H19	
H20	
H21	1,100
H22	1,089
H23	
H24	1,200 (目標値)

調査方法：中心市街地内市場・商店街ヒアリング調査

調査月：平成22年10月

調査主体：あまがさき中心市街地活性化協議会

調査対象：中心市街地内市場・商店街 6団体

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・都心ビジネス機能強化支援事業（尼崎商工会議所、(株)ティー・エム・オー尼崎）

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	商工会議所や(株)ティー・エム・オー尼崎が、NPO法人等との連携のもと、不動産や融資等の企業経営に関する情報を一元的に管理発信する機能の整備、オフィス賃借料の支援や経営相談といった各種補助制度の利用に関する相談体制の構築及び各種事業者のニーズに対応した高度産業人材の紹介等、中心市街地への立地誘導の推進を図るための総合的な支援制度を構築するもの。
事業効果又は進捗状況	「商店街に出店したい事業者」と「不動産会社」の間にたち、事業者に地元のマーケティング情報提供等アドバイスを実施したほか、メディカルモールを併設したマンション(本報告P5記載 阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業)において2事業者が開業予定。

・経営革新アドバイザーセンター事業（尼崎商工会議所）

事業完了時期	【実施中】平成18年度～
事業概要	既存の中小企業の経営改善及び新規分野への進出などの事業拡大を支援するため、相談事業、アドバイザー派遣等を実施するもの。
事業効果又は進捗状況	・随時、企業の経営支援を実施。 ・創業支援ほか、各種企業経営関係セミナーを年間10回程度実施。

	事業実績はあるものの、中心市街地における実績がなかったもの。 空き店舗情報の活用など、他の事業と連携を図りながら、引き続き、実施していく。
--	--

・創業人材育成事業（創業塾）（尼崎商工会議所）

事業完了時期	【実施中】平成 16 年度～
事業概要	創業を促進するため、新規創業・起業を考えている方を対象に、「創業塾」を開催し、事業を開始する場合の心構え、ビジネスプラン作成のポイント、資金調達等の指導を行うとともに、創業のための実践的な知識や能力を養成するためのセミナーを実施するもの。
事業効果又は進捗状況	創業を促進するための「創業塾」を年間 6 回程度開催。 事業実績はあるものの、中心市街地における実績がなかったもの。 空き店舗情報の活用など、他の事業と連携を図りながら、引き続き、実施していく。

・新規開業医支援事業（尼崎商工会議所、(株)ティー・エム・オー尼崎）

事業完了時期	【実施中】平成 21 年度～
事業概要	中心市街地内における新規開業予定者に対し、物件仲介・資金相談・開業計画といった支援を行うことで、高齢化の進展が著しい当該地域に医療集積が進むことにより、中心市街地住民への生活サービス向上を図るもの。
事業効果又は進捗状況	昨年度、メディカルモールを併設したマンション（本報告書 P5 記載 阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業）での開業が内定していたクリニックが開業を見合わせている。現在、老人介護施設も含めて、引き続き入居者を募っていく。

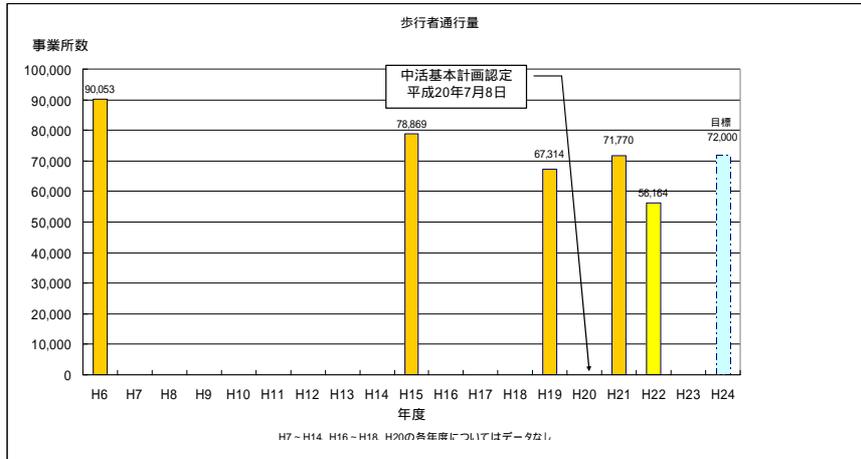
### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成 22 年度の推計値は、基準値の 1,112 件に対し 1,089 件とサービス事業所数が減少しているが、中心市街地南西部の商店街における閉店が主な理由と考えられ、このままでは目標達成とは見込まれない。しかしながら、当該商店街では、地域資源等を活用した活性化策を検討しており、今後も引き続き、積極的に基本計画に位置付けられた事業を推進しつつ立地を促していくことにより、目標達成に向けて取り組んでいく。

目標「地域資源を活かしたにぎわいあふれる中心市街地の形成」

「休日の歩行者通行量」 目標設定の考え方基本計画 P54～P57 参照

1. 調査結果の推移



年	人
H19	67,314 (基準年値)
H20	
H21	71,770
H22	56,164
H23	
H24	72,000 (目標値)

調査方法：歩行者通行量調査

調査月：平成22年7月

調査主体：あまがさき中心市街地活性化協議会

調査対象：歩行者及び自転車通行者、休日7地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・ボランティアガイド育成・運営事業（尼崎ボランティアガイドの会、尼崎市）

事業完了時期	【実施中】平成17年度～
事業概要	寺町地域を訪れる市民や団体等に対して、郷土を愛する市民の立場で案内や説明を行うボランティアガイドを育成するとともに、その知識を活用して、ガイド活動を行うもの。
事業効果又は進捗状況	寺町と商店街をつなぐモデルコースを設定し、歴史的・文化的資源を散策した来街者を中心市街地の商店街等に誘引している。 毎月第二土曜日に事前申し込み不要の定時ガイドを実施。団体向けには事前申し込みにより随時ガイド活動を実施している。

・尼崎都市観光推進事業（尼崎商工会議所）

事業完了時期	【実施中】平成19年度～
事業概要	尼崎市の地域資源である産業や都市基盤施設を活かした新たな観光メニューを開発し、地域固有の歴史的資源を活かした尼崎の都市観光を推進するもの。
事業効果又は進捗状況	まち情報誌『るるぶ尼崎市』を“自治体版るるぶ”としては西日本第1号で発刊し、本市の魅力をより積極的にアピールしたほか、商店街等を絡めて5コースを設定した他、企業施設への見学ツアーの取りまとめを行った。

・ 阪神西大阪線延伸事業に伴う尼崎駅等改良工事（神戸高速鉄道株）

事業完了時期	【済】～平成 20 年度
事業概要	阪神西大阪線の延伸（阪神西九条駅～近鉄難波駅間）に伴い、阪神電車と近鉄電車の相互直通運転（神戸三宮～奈良間）を行うため、西大阪線の終端駅となっている阪神尼崎駅の軌道変更やホームの新設、延長及び大物駅のホーム延長などを行い、乗り継ぎの円滑化を図り、本市中心市街地への来街を誘引する。
事業効果又は進捗状況	平成 20 年度で計画通り完成し、平成 21 年 3 月 20 日に開通。中心市街地の最寄り駅である阪神尼崎駅の平均乗降客数が、開通前と比べ、通行量調査実施時点において月間約 1,200 人程度増加しており、歴史的・文化的資源を活用した魅力づくりや情報発信を行うことにより、来街者数の増加を図りたい。

・ 中央商店街・寺町連携地域振興イベント事業

（尼崎中央一番街(振)、尼崎中央三丁目商店街(振)、尼崎中央四丁目商店街(振)、  
尼崎中央五丁目商店街(振)）

事業完了時期	【実施中】平成 20 年度～
事業概要	地域の歴史的資源である寺町との連携を図ることにより、来街者等に対して魅力を創出し、地域の活性化を推進するもの。
事業効果又は進捗状況	隣接する寺町に所在する、5 つの寺と 2 つの神社との連携により、寺町を来訪した人に「七福神朱印巡り」を案内するとともに、お奨めルート記載のパンフレットや朱印帳を手渡し、商店街と寺町を回遊する仕組みを仕掛けたことにより、中央四丁目の通行量の増加に繋がったと想定される。また、天童稚児のお練行列などの各種イベントを開催。

・ 阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業

（阪神尼崎駅南地区市街地再開発組合）

再掲 P 5 参照

・ 御園公園跡地活用事業（さきタワー・サンクタス尼崎駅前）

（オリックス不動産株大阪支店）

再掲 P 5 参照

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

基本計画掲載事業は、ほぼ計画通り実施されているが、平成 22 年の歩行者通行量は、前年と比較して 15,606 人減の 56,164 人となっており、取組の進捗状況は予定通りとは言い難い状況にある。

主な減少の理由については、今回の計測日が三連休に該当しており、併せて阪神なんば線の開業による市外へのレジャーのための流出や猛暑による外出控えなど様々な要因が考えられる。

しかしながら、地域資源を活用したまちの回遊性を高める事業(本報告P9記載 中央商店街・寺町連携地域振興イベント事業)によって、当該地点の通行量の減少に歯止めがかかったことや、通行量調査後に竣工した阪神尼崎駅南地区第一種市街地再開発事業による大型マンションにより、次年度以降居住人口が増加する。

また、「スーパー玉出尼崎店」が平成22年12月に「トポス尼崎店」跡地(平成22年2月閉店)にオープンしたほか、中心市街地への来街を促すためにも間接的な事業ではあるが、2事業を新たに追加し、集客能力を高めているところであり、目標達成は可能と見込まれる。今後はその他の事業も含め、交流人口の増加、回遊性の向上及び滞留時間の延長などの相乗効果によって、更なるにぎわいの創出を図るとともに目標の達成に向け取り組んでいく。